

世代を超えて、この場所で

住宅街を抜け、相原駅から歩いて10分ほどに位置する相原中央公園。真剣にサッカーボールを追いかける子どもたちの声が響く。そこでは、宮崎芳正さんがスポーツ業界の仕事の傍ら、地元の総合型スポーツクラブの代

表として運営、指導にあたる。

「私はここで小学生からサッカーをやっている、18歳で6学年の指導を頼まれました。一人で教えきれないので、年下の仲間にも声をかけて。協力してくれる大切な仲間がいたから、

ここまで活動を続けられました。」と宮崎さん。プレーも指導も仲間と共に新しい戦略、より良い方法を模索する。幅広い世代の考えを聞くことで、視野が広がったという。子どもたちにも地域で暮らす大人との交流を通して、



相原
AIHARA



協議会の方に声をかけられたことがきっかけだった。これを機に、地元の大学生との走り方教室の企画や、相原で40年以上続いてきた里山を走る元旦ジョギングの運営にも携わるように。老若男女が楽しそうに体を動かす姿がやりがいにつながっている。

「表情の乏しかった子どもたちが、スポーツを通して悔しさや嬉しさを表現するようになって。教えていた子

もたちが指導者になってくれたり、自分の子どもを連れてきたり。成長を見られると感慨深いです。」と嬉しそうに語る。

スポーツを通じた成長や交流の場が続いていくよう、次の世代の育成も意識しているという。スポーツクラブを一般社団法人にしたのもその1つ。地域でスポーツの楽しさを次世代に伝えるバトンがつながっている。



日が昇る前にスタートする元旦ジョギング。走り終わった後に朝日の下でみんなで記念撮影。

そういった経験をしてほしいとの思いから活動している。

地区協議会に加入したのは4年ほど前。公園を管理するNPO法人や地区



小山・小山ヶ丘
OYAMA · OYAMAGAKA



やってみないと、もったいない

「本当に住みやすい街大賞2022」第3位の多摩境エリアが位置する小山・小山ヶ丘地区。そこで小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会（以下、地区協議会）の事務局長をしているのが高橋節夫さんだ。

集積回路の技術者として働いていた高橋さんが地域活動に関わるようになったのは定年退職して数年後。町内会長をしていた会社の先輩に声をかけられてから。「とにかくやらないと。家に籠っていると誰とも付き合いができなくなるよ、って言うので。」と当時は振り返る。以来、町内会長を皮切りに、活動を通してできた縁から様々な地域の取り組みに参加するように。地区協議会では会議の仕切りなどの裏方を担っている。「忙しい中でも皆が会議に参加してくれるのが嬉しいです。地域に顔見知りができるのは良いですね。」と明るく笑う。そんな高橋さんに地区が誇る2つの事業について聞いた。

自宅の庭の花を公開するオープンガーデン事業。イベント開催時には市内外から多くの人々が訪れる。「花に詳しい人たちが頑張っていて。希望者が自由に参加するだけに見えますが、地区の全域をまとめる花の力はすごいですね。」と身を乗り出す。

まだ〇ごと大作戦を機に始めた食べ物の寄付を募るフードドライブ事業は、毎年少しずつ賛同者を増やし、地域に根差した事業になってきた。「場所は小山市民センターにお願いし、受付は社会福祉協議会や堺第2高齢者支援センター、NPO法人ゆどうふの方たちにお願しました。良い事業なので続けていきたいです。」と意気込む。

「地域活動をしたがる人は少ない。それでも地区の後輩には『やってみて』と伝えたい。」という高橋さん。苦労はあっても、イベントが終わると運営に携わった人は皆、達成感に満ちた顔になるという。やってみないと分からない活動の魅力がそこにある。



4～5月に開催したオープンガーデン事業には、花を見に市内外から約300人が訪れた。



フードドライブ事業では、2日間で262Kgの食べ物が寄付された。